


## 教養モジュール科目案内


カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-a1 社会と文化の多様性		
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	森 元斎	責任部局	多文化社会学部
趣 旨	グローバル化が広く進展している現在、私たちはこれまで以上に世界を知る必要に迫られている。そして、このことは必然的に日本（と日本人）を知ることが私たちに求められる。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパといった時空軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなっている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。		
プラネタリーヘルスとの関連性		説明動画	 11月下旬掲載
学生の皆さんへのメッセージ	グローバル化が急速に進むなかで、私たちは文化的・社会的・歴史的・思想的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活することになります。「社会と文化の多様性」を学ぶことは、他者を理解し、自己を相対化することに繋がる知的な営みです。こうした状況を生き抜いていくための知恵を共有できればと思います。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
思想からみた九州	森 元斎	近代以降の九州、とりわけ現在の国道3号線沿い周辺域で生じた出来事を、近代化の流れへの抵抗という仕方論じ、民衆がどのようにして生きてきたのかを明らかにします。	近代化、国道3号線、九州、アジア、ヨーロッパ、思想史	
民俗学で学ぶ日本文化の多様性	才津 祐美子	皆さんは「日本文化」と聞くと、どのようなものをイメージしますか？本講義では、日本の文化—とりわけ人びとの日々の暮らしについて研究してきた民俗学の観点から、日本における文化の類似と相違、または継承と断絶について考察することで、今まで何気なく接してきたであろう身のまわりの文化の再認識を目指します。	日本、地域、文化、多様性、民俗学	

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	ハ国の関心・地域社会	取入り扱う学の内容を	取り扱う学の内容を
思想からみた九州	◎	○			○	○	◎		○	○	◎	○
民俗学で学ぶ日本文化の多様性	◎	○	○		◎	○	◎		○	◎	◎	○
◎（特に重視）の数	2	0	0	0	1	0	2	0	0	1	2	0
○（重視）の数	0	2	1	0	1	2	0	0	2	1	0	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

## 教養モジュール科目案内


カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-a2 文化の交流と共生		
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	細田 尚美	責任部局	多文化社会学部
趣 旨	グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に世界の様々な人たちと共生する必要に迫られています。本モジュールでは、文化人類学と教育社会学という2つの学問的アプローチ方法を用い、地域的には東南アジアと欧州を中心に、人間同士の交流と共生のあり方の多様性について学びます。そのうえでグローバル化にともなって生じている様々な多文化状況に適應する素養と思考力を実践的に身につけることを目標とします。		
プラネタリーヘルスとの関連性			
学生の皆さんへのメッセージ	グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。文化の交流の歴史と様々な共生のあり方について知ることは、「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みです。これは、多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力です。本モジュールを受講することで、多様な考え方に向き合い、受講生同士で議論し合い、幅広く柔軟な見方と行動力を伸ばしてください。	説明動画	 11月下旬掲載

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
東南アジアから学ぶ多文化共生	細田 尚美	この授業では、多様な文化的背景を持つ人たちと共存する方法を試みてきた東南アジアの国々を紹介します。東南アジア島しょ部の国々を中心とした具体的な事例を通じて、多文化共生にはいくつかの方法があることを学び、将来に向けて私たちはどのような多文化共生の方法を選びとるべきかについて考えます。	多様性 グローバリゼーション 若者 アイデンティティ 日本とのつながり	
欧州に学ぶ多文化と教育	福田 紗耶香	20世紀後半以降社会の急激な多様化に向き合ってきたヨーロッパ諸国と、多様化の課題が浮かび上がりつつある日本を比較しながら、多文化社会における教育課題と現状について紹介します。事例やデータから多文化社会において教育の不平等がどのように表出しているか学ぶことで、教育の「あたり前」を問い直し、多様な人々が共に生きていくために必要な視座を身につけましょう。	多文化社会 欧州 移民 教育格差 地域研究	

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	へ国際・地域社会	取人 り文 扱科 う学 の 内 容 を	取社 り会 扱学 う学 の 内 容 を
東南アジアから学ぶ多文化共生	○	○	○		◎		◎		○	◎	○	◎
欧州に学ぶ多文化と教育	○	○	○		◎		◎	○	○	◎	○	◎
◎（特に重視）の数	0	0	0	0	2	0	2	0	0	2	0	2
○（重視）の数	2	2	2	0	0	0	0	1	2	0	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

## 教養モジュール科目案内


カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-a3 教育と文化		
対象学部	多文化社会学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	加納 暁子	責任部局	教育学部
趣 旨	本モジュールでは、文化の中でも芸術（美術・音楽）について学習します。教育において、美術（図画工作）、音楽は幼児教育、小学校から高等学校において指導され、豊かな感性を育み、人間の成長にとって必要で大切な分野といえます。本モジュールでは、芸術を多角的な観点から捉え、その表現性や創造性について学び、現代社会において必要となる創造的・想像的思考を培います。		
プラネタリーヘルスとの関連性	自分の感覚を通して感じることのベースを培っていくこと（感性を涵養すること）がプラネタリーヘルスを感性を通して納得することに貢献する。	説明動画	 11月下旬掲載
学生の皆さんへのメッセージ	教育と芸術について関心のある方の受講を希望します。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
芸術	加納 暁子 菅野 弘之 中川 泰 金原 雅樹 宮崎 友里子	音楽分野では実践（器楽表現）を行いながら、人間と音楽の関わりについて深く学ぶ。美術分野では実際に制作することで、人間と美術の関わり、美術表現の喜びや感動を学ぶ。	人間と音楽、音楽教育 人間と美術、美術教育	○
美術	牧野 一穂	美術に関する歴史と実技（絵画）を通して、美術について多角的に学び、表現力を身に付ける。	絵画表現	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力やり取り	へ国の関心・地域社会	取り扱う科学の内容を	取り扱う科学の内容を
芸術	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	○
美術	◎	◎	○	○	○	○	◎		◎	◎	◎	
◎（特に重視）の数	2	2	0	0	0	0	2	1	1	2	2	0
○（重視）の数	0	0	2	2	2	2	0	0	1	0	0	1

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

## 教養モジュール科目案内


カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-a4 教育と社会		
対象学部	多文化社会学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	隅田 祥光	責任部局	教育学部
趣 旨	教育は、今ある社会にすぐに影響を与えるわけではありませんが、教育の本質である人づくりを通じて、将来の社会に大きな影響を及ぼすようになります。モジュール「教育と社会」では、教育が社会に与える影響について、自然科学と環境の学びを通して、考えを深める機会を与えます。自然科学及び環境・の各分野について、身のまわりからグローバルな範囲までの問題・課題を教育現場（学校や地域社会）の視点から学んでゆきます。		
プラネタリーヘルスとの関連性	身近な環境への負荷から地球規模での環境への負荷について学ぶとともに、学生としてあるいは将来就いた職業人、それぞれの立場から環境改善について考え、討論し、受講時における最適解を探る検討を行う。	説明動画	 11月下旬掲載
学生の皆さんへのメッセージ	教員免許の取得を考えている方、その他広く「教育」に関心のある方も選択可能です。高等学校までの教科の枠組みや理系・文系に制限されない内容で構成しています。諸分野と教育との関わりについて深く考えたり、他の学生たちと議論を交わしたりしてみたいという方は選択してください。		

科目名	担当者名	概要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
身のまわりの科学	隅田 祥光	我々ヒトを含む動物が地球上に誕生してから現在に至るまでのプロセスを理解する。また、動物の多様な種類、形態、行動、生活史、生態が如何にして形作られてきたのか、身近に起こりつつ外来種問題の是非について考えていきます。	地域固有の生態系 感染症 保全 外来種問題 生態学 行動学	○
環境と社会	未定	環境と社会がどのように関わっているかを環境基本法などで大まかに捉え、具体例として環境要因がどのように自然環境や人間等に影響を与えているのかを学習し、学校教育の中で、それをどのように扱って行けば良いのかを考える。また、他国の環境と社会との関わりを多角的に調べるとともに、長崎県の環境に関する課題も取り上げ、対策・施策について理解を深める。	環境法規 化学物質 地球温暖化 放射線 エネルギー問題 長崎県	○

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	① 知識・ 技能	② 主体 性	③ 情報 リテ ラシー	④ 論 理的 組 み 立 て	⑤ 批 判 的 検 討	⑥ 倫 理 観	⑦ 多 様 性 の 理 解	⑧ 協 働 性	⑨ す 考 え を や り 取 り	⑩ へ 国 際 の 関 心 ・ 地 域 社 会	A 取 り 扱 う 内 容 を	B 取 り 扱 う 内 容 を
身のまわりの科学	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
環境と社会	◎	◎	○	○	○	○	◎	○	○	◎	○	◎
◎（特に重視）の数	2	2	0	1	1	0	2	1	1	2	0	2
○（重視）の数	0	0	2	1	1	2	0	1	1	0	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

## 教養モジュール科目案内


カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-a5 現代経済と企業活動a		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	式見 拓仙	責任部局	経済学部
趣 旨	<p>一国の経済は、企業、政府、家計などの経済主体が財、サービス、お金、労働力などを相互にやりとりすることによって成り立っている。このような経済の仕組みを理解する一助として、本モジュールでは企業行動の分析と統計分析の基礎的な話題について学ぶ。</p>		
プラネタリーヘルスとの関連性		説明動画	 11月下旬掲載
学生の皆さんへのメッセージ	<p>前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、自発的・積極的に学習を進めていく意欲のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾け、社会現象に対する観察眼・批判的思考力を向上させる努力が求められる。</p>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
企業活動と戦略	高井 計吾	現代経済において優れた業績をあげている企業と、そうでない企業の差はどこにあるのだろうか。本講義では両者の違いを「戦略」の観点から探求し、業界分析の手法や戦略のビジネスへの応用方法などとあわせて学ぶ。	経営戦略論 企業論	
統計解析の初歩	式見 拓仙	経済、社会現象を読み解く上で様々な統計データや統計量を理解しておくことが必要となる。初歩的な統計量から始まり、確率分布、回帰分析、経済データに関するいくつかの統計指標を学ぶ。	統計分析 経済データ	

教養モジュールの 目標および授業編成の 視点との対応	目 標										※授業編成の 視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力ややり取り	へ国の関心・地域社会	取入 り文 科 学 の 内 容 を	取社 り会 扱 う 科 学 の 内 容 を
企業活動と戦略	◎			◎	◎				○	○		○
統計解析の初歩	○	○	◎	◎	◎						○	○
◎（特に重視）の数	1	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0
○（重視）の数	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

## 教養モジュール科目案内


カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-a6 現代経済と企業活動b		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	工藤 健	責任部局	経済学部
趣 旨	現代経済と企業活動を経済学と企業金融論をつうじて学ぶ。現代経済を理解するために、市場の価格調整メカニズムや限界、それを補うためにおこなわれる政府の経済政策について理解することを目指す。また企業活動を理解するために、企業の設備投資および資金調達を企業金融論の視点から考察し、経営的視点から複眼的で幅広い知識を獲得することを目指す。		
プラネタリーヘルスとの関連性		説明動画	 11月下旬掲載
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、自発的・積極的に学習を進めていく意欲のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾け、社会現象に対する観察眼・批判的思考力を向上させる努力を怠らないようにしましょう。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
経済学	工藤 健	市場経済においても、政府は重要な役割をもっている。ミクロ経済学の基礎に基づいて市場の機能と限界を学び、市場経済において政府がどのような役割を果たせるかをマクロ経済学の基礎に基づいて学ぶ。	市場の価格調整メカニズム、政府の役割	○
企業金融論	今仁 裕輔	この講義では企業金融論の視点から、企業がどのような基準に基づいてプロジェクトへの投資の意思決定を行っているか、投資に必要な資金を集めるための資金調達手段にはどのようなものがあるか、どのような基準で資金調達手段を選択しているかを学ぶ。	資金調達、設備投資、現在価値	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力ややり取り	へ国の関心・地域社会	取入り文扱科学の内容を	取り扱科学の内容を
経済学	○	○	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	◎
企業金融論	◎	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎
◎（特に重視）の数	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	2
○（重視）の数	1	2	2	1	1	1	1	1	1	2	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目

教養モジュール科目案内

カテゴリー	人文社会科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュールⅡ
テーマ名	24-a7 平和と安全保障 (英語開講)		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	清田 智子	責任部局	グローバル連携機構
趣 旨	国際社会は「無政府状態 (anarchy)」であると言われ、人類は2度の世界大戦と数多くの紛争を繰り返してきました。現在も米ロや米中が対立を深め、イエメンでは内戦が続き、ミャンマーでは軍による民衆への弾圧が行われています。日本も3つの核兵器保有国に囲まれ、北朝鮮によるミサイル実験も頻発し、決して平和を謳歌しているとはいえない状況にあります。一方で、国際社会は国連や多国間枠組みを設立することで外交による紛争解決にも努めてきました。核兵器の軍縮・不拡散の流れは、まさに自国の安全や国益を最大化しようとする勢力と、世界平和を希求する人々のせめぎあいとも言えます。日本は自国の安全や国益を守りながら、いかに国際社会の平和や安定に寄与すべきでしょうか。この講義で一緒に考えていきましょう。		
プラネタリーヘルスとの関連性	戦争は、自然破壊や健康被害にもつながりプラネタリーヘルス実現に向けた我々の努力を一瞬で無にする行為です。いかに平和を維持し、地球の健康も維持するか考えます。	説明動画	 11月下旬掲載
学生の皆さんへのメッセージ	このモジュールでは、実際に外交や軍縮の現場で働いてきた講師が、より実践的な内容を実践的な英語で講義します。今後国際的に働いてみたい方は、是非講師と一緒に英語も鍛えましょう。 <b>※このテーマの科目は、すべて英語で授業が実施されます。テーマ決定後は、テーマを変更することはできません。</b>		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード	プラネタリーヘルスとの関連性の有無
Japan's Foreign and National Security Policy	清田 智子	日本の外交・安全保障問題で特に議論が分かれる問題を取り上げ、日本の進むべき道を議論します。	同盟、集団的安全保障、領土問題、国連、海洋秩序、難民問題	○
Toward a Nuclear Weapon-Free World	中村 桂子	核兵器をめぐる世界の動きや日本の立ち位置を俯瞰的にとらえるとともに、私たち一人ひとりと核兵器問題との繋がりを考えていきます。	核軍縮、核不拡散、市民社会、平和・軍縮教育	○

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	目 標										※授業編成の視点	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考える力ややり取り	へ国の関心・地域社会	取入り文扱科の学の内容を	取社り会扱科の学の内容を
Japan's Foreign and National Security Policy	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○	◎
Toward a Nuclear Weapon-Free World	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○	◎
◎ (特に重視) の数	0	1	2	2	0	0	0	0	2	2	0	2
○ (重視) の数	2	1	0	0	2	2	2	2	0	0	2	0

※工学部・水産学部に係るJABEE項目